

## 2025\_秋号のトピックス

今年は、梅雨があっという間に開け、各地で40℃を超えるなど想像を絶する猛暑となっていることから、環境部でも熱中症対策を万全にしつつ、安全第一で現場作業に取り組んでいます。

さて、西技環境ニュース 2025\_秋号では、下記トピックスをご紹介します。

- ✓ 生き物の見つけ方 ～魚類（河川）編～
- ✓ 環境部の主な業務内容（2025年度）
- ✓ 全国アマモサミットについて



うろこ雲が見られる頻度が増えてきました。

## 生き物の見つけ方 ～魚類（河川）編～

環境部では様々な生物調査を実施していますが、なぜ環境部員は希少種や多くの種類を見つけれられるのか？ 答えの多くは経験則になりますが、今回は、環境部員がどのように魚類を見つけているのかについてご紹介します。

### 【生態を知る】

目的の魚類を見つけるために最も重要なのは、その種の「生態」を知ることです。図鑑や文献などで生息環境や生活史といった基本的な情報は把握できますが、それだけでは実際の生息場所をイメージすることは困難です。そのため、熟練の調査員と調査現場へ赴き、時には潜水をしながら、魚類がどのような環境を利用しているのか実際に観察しています。



潜水観察の様子

生態を知るだけでなく、魚類の気持ちに寄り添うことも大切かもしれません！

### 【変化を見逃さない】

河川では、瀬淵やワンド、抽水植物帯など、水中地形や流速に「変化」がある環境に多くの魚類が生息しています。つまり、変化に富んだ場所は、多様な魚類が生息する良好な河川環境であるといえます。このため、事前に調査場所の環境を把握し、確認される魚種をある程度想定したうえで、調査に臨んでいます。

それでは、河川にはどのような環境の「変化」があるのか、代表的な河川環境をご紹介します。

### 早瀬

- ▶ 流れが速く、白波が立っている場所のこと
- ▶ 川底は主に浮き石で、水深が浅く日光が届きやすいため、石には藻類が繁茂し、水生昆虫も豊富
- ▶ 藻類を食べるアユや、石の隙間に隠れて水生昆虫を捕食するアカザなど、多くの魚類が生息している



早瀬に集まるアユ

### 抽水植物帯・流木

- ▶ ヨシやマコモなど水に浸かった植物（抽水植物）や流木は、大型魚など捕食者にとって障害物となるため、多くの小型魚類の隠れ家としての役割を持つ
- ▶ 繁殖場としての役割もあり、メダカやコイなどは抽水植物に卵を産み付ける



流木の陰に潜むオヤニラミ

### 淵

- ▶ 瀬からの流れ込みにより川底が深く掘られ、流れが緩やかになった場所のこと
- ▶ 川を遡上する魚類の休憩場、鳥や人間などの外敵から身を守る避難場、コイやナマスなど大型魚の生息場などの役割を持つ



### ワンド

- ▶ 河川と接続していながらも大部分を砂州や水制で囲まれた入江状の水域のこと
- ▶ 流れが非常に穏やかで、仔稚魚の生息場、遊泳力の弱い魚類の生息場・繁殖場、増水時の避難場などの役割を持つ



### 【適した漁具・漁法を使う】

魚類調査では、投網、夕モ網、サデ網、定置網などの漁具を魚種や河川環境に合わせて使い分けています。普段実施している調査方法を一部ご紹介します！



投網  
きれいに網を広げるのは至難の技！  
熟練者は自由自在に網の広がる形を変えることもできます。



(左)夕モ網(右)サデ網  
水際植物帯や石礫の下に潜む小型の魚類を捕獲する際に使用。  
初心者でも簡単に使えるが、魚類が潜む場所を見つける眼力が必要！

環境分野にかかわらず、何でも実際に自分の目で見ることで、イメージが定着し、覚えも早いことを日々実感しています。

本記事は、魚類を専門とする池原（いけはら）が担当しました。

## 環境部の主な業務内容(2025年度)

2025.8時点での主な業務内容は、以下のとおりとなっています。

| 官公庁事業関連 (国内) |  | 官公庁事業関連 (海外)         |   |
|--------------|--|----------------------|---|
| 国交省          | 遠賀川水系自然再生事業モニタリング調査業務<br>遠賀川水系水辺現地調査 (河川環境基図) 業務<br>六角川・牛津川湛水池モニタリング調査外業務<br>緑川ダム水辺現地調査 (植物調査・環境基図等) 業務<br>緑川ダム・鶴田ダムフォローアップ評価検討業務<br>川辺川流域情報活用検討業務<br>環境調査 (陸上昆虫類外) 標本保管管理<br>山国川水系河川水辺の国勢調査 (両生類・爬虫類・哺乳類) 業務<br>大野川一洲地区詳細設計外業務<br>五ヶ瀬川河川水辺の国勢調査 (魚類) 業務<br>大淀川・小丸川河川水辺環境調査 (鳥類・両爬虫) 業務<br>宮崎海岸モニタリング環境調査・分析検討業務<br>肱川ダム管理資料作成業務 | JICA                 | ケニア国オルカリアV地熱発電開発事業実施促進支援業務<br>インドネシア国有地熱発電事業者の新規開発地点に関する情報収集・確認調査<br>ジブチ国地熱開発試掘プロジェクト掘削監理 |
|              |  | PT.PLN               | インドネシア国ウルンブ・マタロコ地熱発電プロジェクト業務  |
|              |  | 民間事業関連               |   |
|              |  | 環境調査<br>予測評価<br>対策検討 | ダム水質や通砂事業に伴う環境調査・解析、魚類遡上調査、地下水分析検討、発電所工事に伴う騒音・振動・動植物調査、予測 など                              |
| 福岡県          | 国道322号香春大任バイパス水文調査業務委託<br>那珂川魚類調査業務委託  | 環境影響評価               | 陸上風力発電所新設に係る環境影響評価、火力発電所リプレースに係る環境影響評価、火力発電所建設に係る植物保全業務 など                                |
| 佐賀県          | 六角川水系本川圏域河川調査委託 (河川整備計画)   | 自主                   | 送電線工事に伴う希少植物調査、地熱開発に係る動植物調査、発電所増設に係る環境調査・予測 など  |

## 全国アマモサミットについて

脱炭素社会への転換に向けた取り組みが急がれる中、新たなCO<sub>2</sub>吸収源として期待されており、2021(R3)年夏号でもご紹介したブルーカーボン。

今回は、その普及啓発に向け、当社で取り組んだ「全国アマモサミット」についてご紹介します。

### 【全国アマモサミット】

「全国アマモサミット」は、海中のCO<sub>2</sub>を吸収し、ブルーカーボン生態系を育む海草である「アマモ」をシンボルとし、海の自然再生と保全を目指す全国会議です。

サミットでは、全国各地の海や沿岸地域の課題をテーマに、「市民」「高校生」「地域団体」「行政」「研究機関」など、職業や立場、世代の異なる多様な人々が活動紹介や意見交換を行ってきました。これにより、アマモ再生に取り組む全国の人々のネットワークが構築され、海の自然再生のための技術的な情報共有が進みました。

これらの成果を受け、2008年から毎年開催されてきたサミットは、「全国アマモサミット 2023in ぶんおか」をもって一旦区切りがつけられました。

### 【全国アマモサミット 2023in ぶんおかへの参画】

当社は、福岡市港湾空港局を中心とした産官学の組織である「博多湾 NEXT 会議」\*に参加し、博多湾の持続可能性を高めるための活動に取り組んでおり、今回、そのご縁でサミット運営委員を務めることとなりました。

準備段階では苦労もありましたが、事務局一丸となって取り組み、参加者は延べ4,700人、事前・サテライト展示等も含めると80,000人!と、大盛況でした。

\*: [https://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/kankyotaisaku/shisei/hbn\\_index.html](https://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/kankyotaisaku/shisei/hbn_index.html)



アマモ



協賛企業としての当社ポスター

スペシャルカラーに彩られた博多ポートタワー



開催チラシ(上) / 当日の様子(下)

### 【今後の展望】

近年、カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ推進の重要な要素として、ブルーカーボン関連の行政・民間の動きが加速しています。これに伴い、西技環境部にも様々なお問合せや勉強会の依頼が寄せられています。

今後は、これまで培ってきた藻場造成・干潟造成関連の技術を更に発展させ、ブルーカーボンをはじめとする自然資本の保全・再生に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。

本記事は、様々な環境分野に精通していることから、編集者Sが「環境部の Wikipedia」と勝手に名付けている海域専門の堀田(ほりた)が担当しました。環境面での困りごとは、いつでもご相談ください!